

## 資料2

---

# 意見交換資料

## 本日の議題と目指すところ

### 議題1 過疎地域の価値と役割について

過疎地域の持つ価値とはなにか

過疎地域が果たしている役割はなにか

時代の変化がある中、  
過疎地域が持つ価値  
や役割を見直す

### 議題2 今後の過疎対策の方向性について

第1回群馬県過疎有識者会議

令和2年度過疎市町村担当者会議

これまでの議論で示された現  
状と課題を元に、今後の過疎  
対策の方向性を検討する

本日頂いたご意見を踏まえ、事務局(地域創生課)で「過疎方針骨子(案)」を策定し、第3回有識者会議でお示しします



## 議題1

# 過疎地域の価値と役割について

## 自民党過疎対策特別委員会の見解

### 過疎地域の価値と役割

過疎地域は、全国の9%の人口で広大な国土の6割を支えており、多様性があり、美しく風格ある国土の形成に寄与するとともに、多面的機能を発揮している。

具体的には、食料・水・エネルギーの生産・供給、自然災害の防止、多様な生態系を持つ自然環境の保全に大きな役割を果たすとともに、固有の地域文化や美しい景観、やすらぎのあるライフスタイルなど我が国の豊かさと多様性を支えている。また、我が国が取り組んでいるSDGs(持続可能な開発目標)の実現のモデルとなる可能性も十分有している。

持続可能な社会の形成、人口減少社会への対応、国土の強靱化、食料自給率の向上と行った国家的課題を解決するために過疎地域が果たす役割はますます大きくなってきている。



# 現行の県過疎地域自立促進方針における価値と役割

## 過疎地域の価値と役割

### 資源の供給

戦後は、荒廃した都市へ木材や薪炭、農産物を供給することによって、都市の復興に寄与  
高度経済成長期以降も、過疎地域は電力、水資源、木材を都市へ供給してきた  
更に、木質バイオマスや水力といった自然エネルギーや、農産物をはじめとする食料と水資源  
を供給している

### 国土の保全

人々が生活を営むことにより農地や森林といった地域資源が適切に維持管理されることで、日  
本の国土の安定的な保全に寄与してきた

### 文化の醸成

長い歴史のなかで育まれてきた独自の地域文化が息づき、その保存と継承が主体的になされ  
ている地域であり、とりわけ日本文化の象徴でもある木の文化を今に伝えている

### しあわせを実感できる場

現代社会で失われつつある「人と人とのつながり」や「生きる喜び」といった人間にとって極めて  
素朴な「しあわせ」を実感することができる場である

## 次期県過疎方針において考えられる視点

### 過疎地域の価値

東京圏から程近い群馬県の過疎地域特有の価値があるのではないか

新型コロナウイルスにより顕在化した群馬県の過疎地域の価値があるのではないか

国民や県民の幸福度の向上に繋がる過疎地域の価値があるのではないか

### 過疎地域の役割

日本全体がSDGsに取り組む上で、過疎地域が果たす役割があるのではないか

日本全体で人口減少社会が到来するなか、過疎地域が果たす役割があるのではないか

群馬県の過疎地域が果たしている関東圏での役割、県内での役割があるのではないか



## 議題2

# 今後の過疎対策の方向性について

## 人の流れの創出及び地域社会の担い手となる人材の育成・確保

- ◆東京に居ながら地方に関心を寄せている関係人口は確かに存在し、中には時間をかけて関係を深め、移住して就農したり開業したりする若者もいる。
  - ◆東京圏から2時間以内で行ける首都圏からのアクセスの良さが群馬県の強みになっている。
  - ◆群馬県は独自で移住のコーディネーターや民間人、行政の横の繋がりが出来ていて、移住者に本当に向いている地域を紹介できる体制が整っている。
  - ◆地域おこし協力隊の活動が、過疎地域と周辺市街地との交流に繋がっており、その繋がりが過疎地域の特産品や良さを知るきっかけになっている。
  - ◆移住者等の新しい山村の担い手が地域コミュニティを維持していけるだけの基盤・ベースをどのように作っていくかが課題。
- 
- ◆地域おこし協力隊は任期終了後の事業展開や住居、収入の確保が課題。
  - ◆就労の場の確保や移住コーディネーターを中心とした相談窓口等の受入体制の整備が必要。
  - ◆ワーケーション・テレワーク施設が不足している。
  - ◆移住者に紹介できる住居・空き家の確保や空き家バンクの活用が課題。
  - ◆移住者が地域に馴染み、地域のしきたりに理解を得られるようなフォローが必要。



## 地域資源等の活用による雇用の場の創出

- ◆過疎地域では地域産品の開発など創意工夫を凝らした取り組みが必要。
  - ◆自伐型林業という新しい林業は、移住と結びつくケースも多く、安全性も高く環境保全にも繋がる。
  - ◆移住者たちが新しい仕事を創り出したり、産業として振興していこうとする機運が高まっている。
  - ◆山林を手入れしていくことで山林が商品となる仕組みを確立していければと考えている。
  - ◆群馬県は国土面積の割合と同じで県土の67%が森林であり、人口林率も全国は41%で群馬もほぼ同じである。群馬県は言わば日本列島の縮図であり、林業は非常に大事な産業。
- 
- ◆森林資源を活かした林業や体験型観光、地域特産品の生産体制の確立など、地域の特色を生かした起業や振興策の促進が必要。
  - ◆農林地で鳥獣害が多発し、農林家の意欲減退、担い手の減少、荒地の増加につながっている。
  - ◆サテライトオフィスや地域資源を活用した企業誘致が必要。
  - ◆行政と公共的団体で連携しながら特産品の開発や雇用の場の創出を行っている。

## 情報通信基盤整備、デジタル化、新技術活用

- ◆産業や生活環境の基盤になるものは情報インフラであり、その上に産業や生活環境が乗ってくるので、これを維持していかなければならない。
- ◆テレビ会議等の新しい様式も広まっており、こうした技術を活かしていくべき。
- ◆専門的な知識・技術を持った人材が行政に不足しており、思うようにデジタル化やオンライン化が進められていない。
- ◆高齢者等はデジタル技術を理解できない人が多いため、高齢者に対する専門的知識を有する人材派遣や講習会等の支援が必要。
- ◆ICTなど先端技術の活用により超省力化や生産物の品質向上が期待できる一方、導入には多額な費用を要する上、身近な導入事例等も少ないため、未だハードルが高い。
- ◆移住相談会はZoom等のツールを活用すれば、対面形式と変わらず相談対応ができ、逆に相談者はリラックスして相談が出来るメリットもある。



## 交通、子育て、高齢者福祉、医療、教育等の生活環境の確保

- ◆住んでいく上で必要な維持・管理は、かつてはそれぞれの家庭で道路清掃や農地管理、山林の維持などがされていたが、最近はその力が弱まってきているのを感じている。
  - ◆農地や山林、道路などをこれからどのように管理していくかという問題もある。
  - ◆過疎でもいきいきとしていて、生活も成り立つところを子ども達の世代に見せることが大事。
  - ◆市街地の子ども達が過疎地域で農業体験を行っており、こうした行ったり来たりの交流が大切。
  - ◆町を小さくコンパクトにし、高齢者施設や住宅を整備し、一人一人が住んで良かったと思えるまちづくりを目指している。
- 
- ◆山村留学と英語教育を組み合わせた施設を整備し、全国から児童が集まってきている。
  - ◆医療の拠点となるような病院が地域内にない。医師が不足しており地域医療の維持が課題。
  - ◆人口減少により電車やバスといった公共交通機関の経営が悪化しており、持続可能性が危惧される。
  - ◆小中学校の児童・生徒数の減少が著しいため、学校の統合や広域的な連携等が今後の課題。
  - ◆様々な生活環境の維持・整備を図るため、定住自立圏の形成に向けた協議を圏域町村と進めている。

## 各種社会資本の整備等による安全・安心の確保等

- ◆東京一極集中は災害面でのリスクもあり、また今回新型コロナウイルスの問題も出てきているため、一極集中を是正し、国土の均衡ある発展を目指していくべき。
  - ◆過疎地域は共通して山林が多く、面積が広い。環境面も考慮してカーボンオフセットやカーボンニュートラルにもしっかりと取り組む必要がある。
  - ◆緑のダムをキーワードにして、カーボンオフセットにも取り組んでいかなければならない。
  - ◆群馬県の過疎地域が担っている首都圏の水がめ、地球環境保全、食料供給、エネルギー供給等の機能をしっかりと守っていくためにも、過疎方針にSDGsの17目標をリンクさせてほしい。
- 
- ◆地域が広範囲に渡って土砂災害警戒区域となっており、大規模な災害が発生した場合、地域に甚大な被害が出る懸念がある。
  - ◆少子高齢化や人口減少により、消防団の防災力維持が課題となっている。防災体制の整備や防災情報システムの強化などについても充実を図っていく必要がある。
  - ◆福祉避難所となる施設が1施設のみであり、密を避けての避難所運営方法に課題がある。



## 集落の維持・活性化

- ◆「適疎」という言葉で、ソーシャルグッドディスタンスが保たれている空間の価値を提案していくのも良い。
  - ◆広い視点で東京圏との交流と、より近い視点で近隣地域との交流をセットで考えることや交流の起爆剤となるような仕掛けが必要。
  - ◆新型コロナウイルスの影響等もあるが、悪い方に考えるのではなく、田舎は良いところで生きていけるという面を周りに伝えていくかが大切。
  - ◆適度な空間に良識ある暮らしがあって、生活を支える経済力が担保されていれば、それは豊かで幸せな暮らしであり、過疎地域が目指す姿。
  - ◆人口減少が問題ではなく、人口減少で社会のシステムが成り立たなくなることが問題。
- 
- ◆転出による空き家や、所有者不明土地が増えてきており、対応に苦慮している。
  - ◆集落支援員や、行政からの地区担当職員など、集落対策の役割を持つ人材を配置している。
  - ◆長期的な行政コスト削減を考えた場合、コンパクトシティを検討する必要があるかとも思うが、そこに住み続けたいという意思に添った支援及び整備等がどこまでできるかが課題である。
  - ◆都市部から過疎地域の集落に人を呼び込む移住・定住施策を行っていく必要がある。

## 地域文化の振興等による個性豊かな地域社会の形成

- ◆SDGsは、全部ローカルの目標なので、それぞれの地域に17の目標を落とし込むことで、地域の豊かさを増長する可能性は非常に高い。
  - ◆群馬の人たちは群馬に対するコンプレックスを持っていがち。そもそも「過疎」というフレーズが良くないので、もっと前向きな言葉に変えた方が良い。
  - ◆過疎地域は夢が叶わない場所なのでは無く、むしろ逆で夢が叶う場所である。古民家を改修することも、畑を始めること、山で遊ぶことも出来る。そういった点をもっとウリに出来るのでは無いか。
  - ◆今は様々な生き方や価値観の多様性を受け入れる成熟した社会になろうとしており、過疎地域はその受け皿となるべき。過疎地域の歴史に惹かれる人たちも増えてきている。
- 
- ◆地域の担い手も減少・高齢化しているため、今後、伝統芸能や地域活動が衰退する恐れがある。
  - ◆伝統工芸については、恒常的な後継者不足と資金不足が重要な課題となっている。
  - ◆国内外からのアーティストが地域に集ってくるので、アート活動を支援し地域振興を図っていく。
  - ◆地域おこし協力隊員が伝統工芸などの担い手として活躍している例もある。



## 次期県過疎方針におけるキーワード(事務局イメージ)

### SDGs

SDGsのゴールを目指していくなかで、地域の豊かさや地域の持続可能性を高めていく

### 山林の多面的機能

持続可能な社会を形成していくなかで、山林の持つ多面的な機能を守り、発揮させていくことが必要

### なりわい

地域における経済基盤を担保するための「なりわい」を創出することが必要

### 田園回帰

過疎地域への移住者や地域に関わろうとする関係人口を受け入れ、地域の担い手や豊かさを増やす

### 集落機能

安心・安全・心地よい地域を実現していくために、集落の必要な機能を維持・確保していくことが必要

### シビックプライド

過疎地域の現状に諦めるのではなく、自分の地域に誇りと愛着を持つことが大切